

米国学術研究の動向

NIH、インフルエンザ研究調査を実施する5組織に総額2,300万ドルを助成（4月10日）

国立衛生研究所（National Institutes of Health : NIH）傘下機関の国立アレルギー・感染症研究所（National Institute of Allergy and Infectious Diseases : NIAID）は、インフルエンザの基礎研究と、世界的流行病となる可能性のあるウィルスの迅速な特性化に重点を置いた国内外における調査研究を実施する「インフルエンザ研究調査センター・オブ・エクセレンス（Centers of Excellence for Influenza Research and Surveillance : CEIRS）」プログラムの下で、研究・調査活動に7年間取り組む研究機関5組織に対し、総額約2,300万ドルを助成することを発表した。CEIRSは、2007年にNIAIDが立ち上げたプログラムで、2009年にH1N1インフルエンザが世界的に流行した際には、迅速なウィルスの特性化や、候補ワクチンの臨床前試験の実施などといった非常に重要な役割を果たした。今回助成を受給する機関は、2007年にも選出されたエモリー大学（Emory University、ジョージア州）など4組織に、今回新たに選出されたジョンズホプキンス大学（Johns Hopkins University、メリーランド州）を加えた合計5組織である。

なお、CEIRSプログラムの詳細及び助成受給機関のリストは、
<<http://www.niaid.nih.gov/LabsAndResources/resources/ceirs/Pages/centers.aspx>>から
閲覧可能。

National Institutes of Health, NIH funds influenza research and surveillance network
<http://www.nih.gov/news/health/apr2014/niaid-10.htm>